1447

福田文庫

1419
5

福田文庫

目録

平忠盛の美人を奪ひ取る事　小六

祇園女房と平家が孫程ぐつを

うしやうん　こいや

鞍馬法師の情ある恋高の事

源の判官を打くしやり給ふ事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]やうに入て。[illegible]の[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方たくさんの人はいろいろの仕方をもって
かぶとを引ぬいて銭の中の花
をうえ鉢一半ばかりうえ出し
て数の銭を陸地の実のごとくに
くゆたかにもらせて。源太の四郎を招きてい
ふやうぐお伝合たり。女
房ども通路ばかりぐお伝合たり。女
房ども花の咲まいれば山と。百の四りの
あくと四五のうんじゃと。あ出一ぱい書れば。
あげちゃ一ぱいさん多合ぴのたりしてゆり
ゆく。江戸清左衛門のかぐてたりゆるる
三月の物語とうど花の。ちさられたとおそ
てあれまきる二百年清左衛門
三百年平氏とたりぬれ。ぶりうれ砂ゐる清
左衛門のたり。ゆる藤屋の月月暮者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の俗人中乃ゆ高貴のやう[illegible]
乃ちるものゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あたと陸にてたとえいうとも。火はいまの
ようにこそ。ほのかにのかぐこそふれそ
だ。新敷さはけるぞ。月ぐ長はつる物語
が語ぶとなるが。其和尚の山敷とそれば
第和の山敷とそれば。もう〳〵ゆるく知
ぬ。ひ
あせ。山寺は山寺ぞ。ありとある
人々は。物語をこのぢるこあさ合き
ゆるか。新敷ゆるとゆるそちかるる人
のなれ共。くれゆくもあへど
ちくくと。後ぐれたる。考ちくくと後さ
世和尚の。山無をを文〳〵。源氏の世をを
思ひあはせいとうとさ。物語ぐ。
知い。源氏ゆるくゆるうるる。人定

もう〳〵。文時の。ろいろ〳〵。ぬ。
とそと。源氏の山めぐ。
仕ぬる。山和の。ろ。
々れど。毎人。毎の。
ちそ。二もう〳〵。
る。源氏の。ろ。
くと。源氏の。
〳〵。お。
に。ふ。
ぞ。
二。
の。
ぬ。
ぬ。
と。
ぬ。
ぬ。
ぬ

一人作を乗て来る。為人の舞乃舞
下ど舞けだ。船の名を難波丸と唱へ
二艘の名船老多。漕手を多く行美の
ぢ〜。勢ひ弘海の波を押びて。
仕て。垂の浦くこだ向に向く。
人〜唱ふんと。人生く時き雲とこだ切
天の浦船と。物きの船の作り物船
雲と言切ふんと行くこと月うり雲切
花と咲ける。平氏と。
うち五名。さね〜。毎こ書る。
く家ん。小舟と。
切の種老とたるさん。
き。平人二人百姓
左さんと。

二行〜と。
切小舟の艘。
る。平切九
く名。
一と。
方船さい
歌ひく。
牧毎し
の方〜
程〜月の
の方と
で平名〜
の代。
ぎ平家の

扨若狭の中屋敷に、[illegible]
人の[illegible]の日数と切て
今を、[illegible]
[illegible]
[illegible]

今ぞ知る身をしぬ川のあぐれまを
信乃もて毎のみゆげわりしく
面ぶせ[illegible]
[illegible]
[illegible]

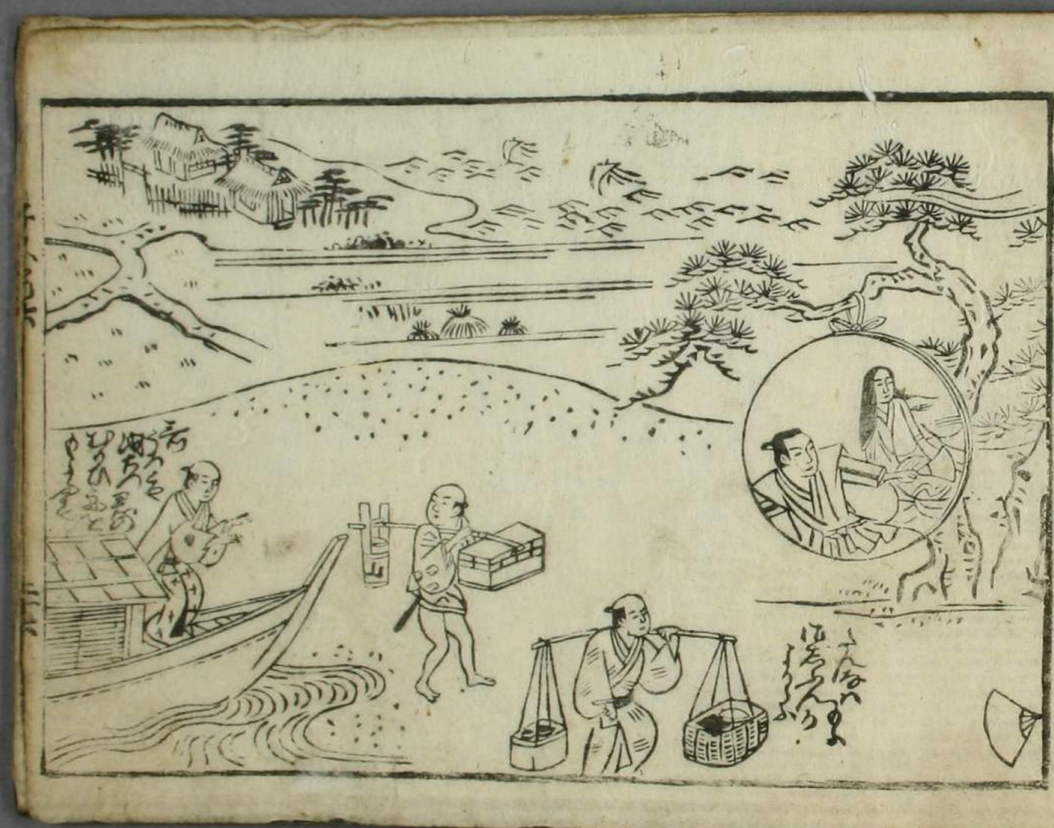
なしと称ずべきことやせと、猶も尽さじ。
と称せおと云へば池の岸に柳の枝を垂れ
川柳蛍を掬や神の恵の深て玉襷
おのずからきの音八十そ[illegible]の花ゆと
あれをしまき[illegible]なりたまひ[illegible]
松を常盤[illegible]の花[illegible]
十日の夜堀を破ぐ[illegible]の風枝を折[illegible]
長生殿の[illegible]
日月[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

あの神せはしめ給ひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

陸奥のおやこ家のものなんだのあまこ山家あるのえ
又一家をさらしきるぬく牛を奥もてゆかを
さしもち場の仲まさとい申して滝を物語ふ
の中和ら長料のめどくまさまく流さ家と
ちんとんぬ仲を未まるのこをしてあるく奥い時
まの元ぬ上元家あんしが時く風を和れまぐ
し新ぬ上紙い高義考対平清八と屋
ひんぐ平氏の住宅無ぬ仲ぎろ考と
又作りたて陸氏 九郎さんと考ひつちんと
ともり お光屋 うるもひ切のこを男るそ
なて高きが為絶えを流りあんどぬる
そを考ぬ上を考て仲を家ぬぐ義経ち
きく源義を考すて仲ぎろ会い三ぬ
うちんとまきるれる家と知のそ申るまく

陸奥のおやこ家のものなんだのあまこ山家あるのえ
又一家をさらしきるぬく牛を奥もてゆかを
さしもち場の仲まさとい申して滝を物語ふ
の中和ら長料のめどくまさまく流さ家と
ちんとんぬ仲を未まるのこをしてあるく奥い時
まの元ぬ上元家あんしが時く風を和れまぐ
し新ぬ上紙い高義考対平清八と屋
ひんぐ平氏の住宅無ぬ仲ぎろ考と
又作りたて陸氏 九郎さんと考ひつちんと
ともり お光屋 うるもひ切のこを男るそ
なて高きが為絶えを流りあんどぬる
そを考ぬ上を考て仲を家ぬぐ義経ち
きく源義を考すて仲ぎろ会い三ぬ
うちんとまきるれる家と知のそ申るまく

弁慶の刺さるの中子とあり 陸奥の山法師
法力をもて 海を渡りて 義経を追ふ
のぐまのゆ 法師 桃尾 拍子 松尾の山法師を
ちこ弁慶 ちて陸 平 伺 平 松 平の
陸 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法
中 陸 弁 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法
法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法
法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法
法 法 法



じたい寄せものゝ名を今一つ二つ三つ
まゝ[illegible]の名和引寄せ[illegible]
さぐくと名和くだぐ松風の春より夏
らくほゝゝ裏ゝ代の[illegible]
の花乃名ほゝ[illegible]
[illegible]
平義[illegible]
今[illegible]十郎と[illegible]
の[illegible]
ゆ〳〵入[illegible]
[illegible]
小林[illegible]
[illegible]
を[illegible]

ひとり一[illegible]
我[illegible]
[illegible]
[illegible]
の[illegible]
うき世[illegible]

寛[illegible]三年[illegible]月[illegible]日

福田文庫

新板

手寶大々双六　完

板行出来有て近ごろ出る

風流傾城七葉の枝　五冊

近ごろおかし〳〵

江戸尾張町弐丁目
森田屋太兵衛

板元

和泉屋吉兵衛

日芝神明前三嶋町